

油山の宝物さがし～周囲の村の暮らし～

油山山塊は城南区、南区、早良区、那珂川町に周囲を囲まれています。先人は折々に地域の記録を残してくれています。

交通アクセスなどから今の私たちに親しい油山の南側は樋井川村（現 柏原、桧原、長尾、東油山、片江、堤、田島等）という名でした。大正時代の様子を早良郡志（大正12年 福岡県早良郡役所編）でってみました。大正10年当時戸数564戸、人口3564人。うち7割が農業従事世帯でした。

村の面積は約2055町歩。うち田510町歩、民有林822町歩、国有林180町歩と山あいの谷部や平地に田が多い村の情景が目につきます。

また主に東油山、柏原の山間部から木材、薪炭材、竹材を産出し、その他杉皮、竹皮、松茸、筍も産していました。養蚕、養鶏、果樹栽培も行なっていました。農業の他これら副業も行って農村地帯だった様子がうかがえます。松茸を産していることから若いアカマツ林があったのでしょね。

また明治以降の南区の様子を描いた「南区ふるさと」（平成4年 福岡市南区民俗文化財保護会）では農事や季節と結びついた年間行事の様子が記されています。このなかで柏原については集落の共同風呂が昭和のはじめまであったこと、燃料は当番の世帯が各戸から運び、水は井戸や谷川を利用したことが語られています。では、「各戸の燃料」はどこから来たのでしょうか？集落の共有林があったのかそれほどのあたりにあったのか？

裏山である油山は周囲の集落の人がどのように利用可能であったのか、なかったのか。まだ出会っていない資料や人から知ることができたら、それは大きな油山の宝物だと思います。（柴戸）

